

151 星形要塞と五稜郭 (2023年3月9日)

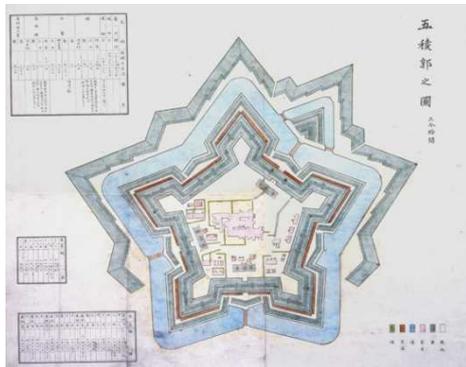
右にある航空写真をご覧ください。この写真は、星形要塞を写しています。星形要塞は、15世紀後半以降にヨーロッパで発展した築城方式です。しかし、この写真は、ヨーロッパではなく、函館にある五稜郭を写したものです。なぜ、日本に星形要塞が残されているのでしょうか。



西洋では戦争に火砲が使われるようになり、戦術が大きく変わりました。中世に見られた垂直で高い城壁を持つ城塞では攻撃を受けやすいため、高さをなくし、五つの角（稜堡：りょうほ）に砲台や兵を配置した星形要塞が発展しました。

日本は、江戸時代（1603-1868）に200年以上もの間、鎖国をしました。しかし、1853年のアメリカのペリー提督の黒船が浦賀沖に来航し、江戸幕府は翌1854年に日米和親条約を締結して、下田と箱館の二港を開港を約束しました。箱館港の開港に先立って、外国の軍艦からの砲撃に耐えられる要塞が必要となりました。そこで、幕府から派遣された武田斐三郎（あやさぶろう）という人物が中心となって、箱館に五稜郭が建設されました。五稜郭とは、「五」つの「稜」堡を持つ城「郭」を意味し、まさしく星形要塞を指します。

1855年、三隻のフランス軍艦が、相次いで箱館港に緊急入港しました。当時はクリミア戦争が勃発しており、フランスやイギリスの軍艦が、日本海やオホーツク海を航行していました。長期の航海に疲労した乗組員の中に病人が相次ぎ、フランスの軍艦は、病人の治療のために上陸許可を求めて箱館港に入港してきたのです。日本は、まだフランスとは和親条約を締結していませんでしたが、箱館奉行の役人は、人道的な配慮から、病人の上陸を許可しました。武田は、このような理由で箱館に停泊していたフランスの軍艦の副艦長から、星形をした要塞都市の地図を見せられ、これを五稜郭の原案に取り入れたとする話が伝えられています（写真右は、最終設計図の一つとみられる図面）。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

フランスでは、ルイ 14 世の軍事顧問であったヴォーバン（1633-1707）が設計した星形要塞の一つが、リールに残されています（写真右）。リールの要塞と五稜郭（写真右上）を比較すると、形がとても良く似ています。



五稜郭は、日本で作られた最初の西洋式の城郭と言われています。しかし、五稜郭が建設された時、時代はすでに 19 世紀後半になっていました。

ヨーロッパでは 16 世紀頃から存在するこのような要塞は、すでに時代遅れだったのではないかと、という疑問が湧いてきます。五稜郭には政治と外交的な機能を担う奉行所が置かれ、1864 年の竣工当時は大砲は設置されていなかったと考えられています（注）。それなのに、武田は、なぜ星形要塞に似せた五稜郭を設計したのでしょうか。開国した当時の日本は、軍事力で欧米諸国から大きく遅れをとっていました。ある専門家によれば、日本にとっては、ヨーロッパ諸国に対して、日本の技術力や軍事力を示すことが重要だったのではないかと考えられています。

五稜郭は、現在は公園として一般に開放され、様々な文化イベントが開催されています。星形をした城郭は日本ではとても珍しく、函館の五稜郭は観光名所として知られています。日本に残されている多くの城郭とは異なり、なぜ五稜郭が星形をしているのか以前から不思議に思っていました。フランスに来て、やっとその謎が解けました。

（注：1869 年の箱館戦争時に、旧幕府軍が大砲を設置した。）